

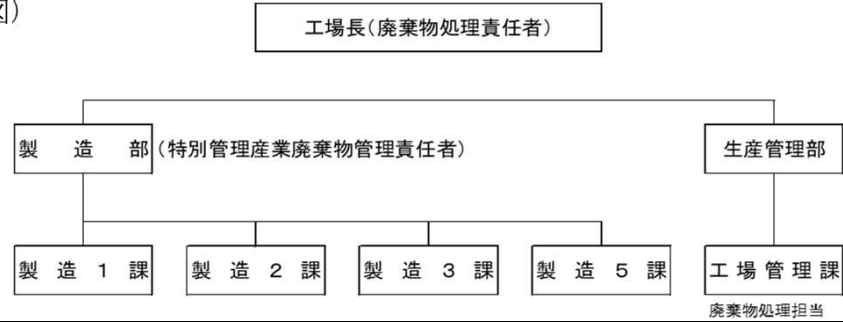
(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 24 日	
尼崎市長 殿	
提出者	
住所	6 6 1 - 0 0 0 1 尼崎市塚口本町2丁目41-1
氏名	川上塗料株式会社 本社工場長 木田幸作 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号	06-6421-5411
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	川上塗料株式会社 本社工場
事業場の所在地	兵庫県尼崎市塚口本町2丁目41-1
計画期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日まで(5ヵ年計画)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	1 6 4 4 塗料製造業
②事業の規模	生産量(109期 令和4年12月～令和5年11月) 6 1 9 5 t(合成樹脂塗料、水系塗料、シンナー)
③従業員数	9 1 名(令和6年3月末現在)
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	工程 発生源 廃棄物 処 理 ・ 処 分 油性塗料(製造工程) → 廃塗料 → 焼却施設 → 燃え殻(残渣) → 埋立処分(管理型) 委託処理部分の範囲 蒸留残渣 → 中間処理(蒸留) → 再利用

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	排出量	399 t	t
	(これまでに実施した取組) ①不適合品塗料の廃棄量削減 ・再生推進 ・再発防止に関する教育		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	排出量	450 t	t
	(今後実施する予定の取組) 目標値は過去5年の平均450 t以下を維持する目標とする ①品質異常品塗料発生による、廃棄塗料削減 ・再生化推進と異常再発防止に関する是正と教育 ②製造設備洗浄溶剤の使用量削減 ・同系塗料の連続製造による洗浄作業低減 ・同系色の連続製造による洗浄作業低減		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃塗料（リサイクルせず処分）及び廃溶剤（洗浄作業使用後の溶剤社内でリサイクル）をきちんと分け、廃溶剤を廃塗料としないよう徹底
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・今までの取り組みを継続

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	267 t	t
	（これまでに実施した取組） ・洗浄作業に使用した廃溶剤を蒸留 ・同系塗料の連続製造による洗浄作業低減 ・同系色の連続製造による洗浄作業低減		
	【目標】		
②計画	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	330 t	t
	（今後実施する予定の取組） 洗浄溶剤の効率的使用による発生量削減		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組） 特になし		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組） 特になし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	全処理委託量	160 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	160 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	3 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	6 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	154 t	t
	（これまでに実施した取組） 優良認定処理業者へ依頼するようにしている		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7000 引火性廃油	
	全処理委託量	120 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	120 t	t
	再生利用業者への処理委託量	2 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	4 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	116 t	t
	(今後実施する予定の取組) 前年度に引き続き優良認定処理業者へ依頼するようにしている		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和5年度実績）】		
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	399	t
	(今後実施する予定の取組) 2020年4月から移行		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。